

01-006

医療的ケア児の保護者・看護師・保育者を
つなぐ情報共有アプリの開発松井 剛太¹、三上 史哲²¹香川大学教育学部、²香川大学医学部

本研究の目的は、医療的ケア児の保護者、ケアにあたる看護師、入所先の保育者の間で情報共有を可能にするアプリの開発である。

いわゆる医療的ケア児等支援法の施行により、医療的ケアを必要とする幼児の保育所での受け入れが今後進むと予想されるが、保育所におけるケアを効率的・効果的に進めるためには、関係者間の情報共有が不可欠となる。

本研究では、タイムリーに情報共有できるアプリの開発に向けて、パイロット版の試行による保護者・看護師・保育者のインタビュー結果から求められる機能や使用感について分析する。また、小学校以降に繋げるときに生じる課題など、今後の展望についても探索的に検討する。

01-007

小学校の医療的ケアに関わる学校看護師の
看護実践能力 ～A市の学校看護師に対す
るインタビュー調査から～岩永 昌子¹、小柳 康子²¹福岡大学医学研究科大学院修士課程、²福岡大学医学部看護学科

【目的】

医療的ケア児の増加を背景に学校看護師の配置が進んでいる。2021年「医療的ケア児及其の家族に対する支援に関する法律」が公布され、教育体制の拡充が求められている中、小学校に在籍する医療的ケア児も増加し、個々の心身の状況に応じ学びを支える看護は重要である。しかし、小学校で医療的ケアに関わる学校看護師の実態は明らかになっていない。学校看護師の看護実践能力を明確にする上で、その実践を明らかにする必要がある。そこで学校看護師の看護実践能力を明確にすることを目的に本研究に取り組んだ。

【方法】

質的記述的研究。A市の小学校において医療的ケアに関わる学校看護師に同意を得て、半構造的インタビュー調査を実施した。逐語録データの内容分析を行った。倫理的配慮として所属機関の研究倫理委員会より承認を得て実施した。(承認番号：U21-04-011)

【結果】

研究参加者の逐語録データ 200 記録単位を同一記録単位群に分割した。35 同一記録単位群を意味内容の類似性に基づき分類した結果、学校看護師の看護実践能力として [安全な医療的ケア] [自立に向けた関わり] [安心に向けた親への関わり] [子どもの尊厳を守る支援] [子どもの健康状態に合わせたケア] [楽しい学校生活のための支援] [みんなで連携したより良いケアの試み] [教員の医療的ケアの理解を高めるはたらきかけ] [学校組織の一員として求められる実践] 9 カテゴリーが生成された。カテゴリーの分類への一致率は平均 86.7% で、カテゴリーの信頼性を確保していると考えられた。

【考察】

小学校に医療的ケア児の在籍数が増加する中、A市の小学校において医療的ケア児の学びを支えるための学校看護師に多様な実践が明らかとなった。分析の結果、医療的ケア児の学校生活の確立のために、[安全な医療的ケア] は学校生活の基盤づくりとして学校看護師の実践内容の中核と考えられた。学校看護師に求められる看護実践能力には、医療的ケア児の自立に向けた関わりと、医療的ケア児の思いを尊重した支援、さらに人との繋がりの中で医療的ケア児の学校生活が楽しく送れるように支援する力が求められる。さらに、学校の中での職員としての実践は、医療的ケアの実践以外にも個別の安全指導や生活指導等、学校に求められている学校看護師の実践内容が示され、学校の中の専門職のひとつとして専門性を確立していく過程において必要な実践力であると考えられる。